

橋梁技術発表会及び講演会

—伊藤學賞表彰式—

参加費無料
定員650名
申込先着順

平成29年

日時

10/13(金)

13:00~17:40

会場

銀座ブロッサム(中央会館)ホール

〒104-0061 東京都中央区銀座2-15-6

Tel.03-3542-8585

申込方法

ホームページ(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>
の「技術発表会申し込み受け」まで
(受付は平成29年9月1日~9月29日)

申込期限

平成29年9月29日(金)

連絡先

一般社団法人 日本橋梁建設協会
〒105-0003 東京都港区西新橋1-6-11
西新橋光和ビル9階 Tel. 03-3507-5225

継続教育

CPDS認定予定

他地区

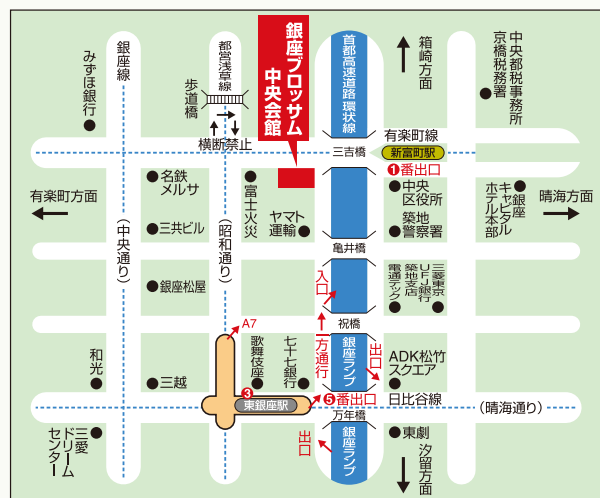
大阪地区は	10月18日(水)	ドーンセンター
中部地区は	10月27日(金)	東建ホール
北海道地区は	11月 2日(木)	北海道経済センター
東北地区は	11月10日(金)	仙台国際センター
九州地区は	11月17日(金)	レソラNTT夢天神ホール

にて開催です。

(6地区開催ですが、発表テーマは異なります)
申し込み等詳細はホームページでご確認願います。

技術発表会(第1部)の発表原稿(論文)は、当日配布をしております。ホームページに掲載しますので、各自ダウンロードして持参して下さい。(PPTの出力は当日配布します)

アクセス



●東京メトロ有楽町線「新富町駅」1番出口 徒歩1分
●東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線「東銀座駅」3・5番出口 徒歩8分

13:00~13:10

開会の辞

一般社団法人 日本橋梁建設協会
会長 坂本 眞

13:10~13:25

橋建協報告

~協会を取り巻く環境と課題、取り組みについて~
広報委員会

第1部:技術発表会

13:25~14:05

1.道路橋示方書はこう変わる

~部分係数体系版の改定内容~

設計小委員会 設計部会 佐合 大

14:05~14:15

休憩

14:15~14:55

2.ここまで進んだ鋼床版の疲労対策

~垂直補剛材上端部と架設用吊金具ももう大丈夫~

床版小委員会 鋼床版部会 林 暢彦

14:55~15:35

3.イズミット橋の工事報告

~上下部一括デザインビルドによる長大吊橋の建設~

海外事業委員会 高井 祐輔

15:35~15:50

休憩

第2部:伊藤學賞表彰式

15:50~15:55

1.受賞者紹介

15:55~16:00

2.表彰式

16:00~16:20

3.伊藤學賞受賞者講演

16:20~16:35

休憩

第3部:特別講演会

16:35~17:35

ドボクの見方と見られ方

—橋梁デザインに現れる地域文化—

千葉工業大学 工学部
デザイン科学科 教授
八馬 智



17:35~17:40

閉会の辞

橋梁技術発表会 実行委員会
委員長 上原 正

1 道路橋示方書はこう変わる

～部分係数体系版の改定内容～

道路橋示方書が5年ぶりに改定となり、その内容も現行の許容応力度法から部分係数法へと大幅な変更となる。そこで、おもな改定内容や留意点について具体的な設計例を交えながら分かり易く説明する。

2 ここまで進んだ鋼床版の疲労対策

～垂直補剛材上端部と架設用吊金具ももう大丈夫～

現在問題となっている鋼床版の疲労損傷は、道路橋に疲労設計が適用される以前に設計・施工されたものが殆どである。今の鋼床版は最新の知見に基づき対策が施され、疲労耐久性が大幅に向上している。そこで、過去の疲労損傷事例と対策を整理、再考し、そこから更なる疲労対策を提案する。

現行基準は、大型車輪荷重が常時載荷される位置直下に主桁ウェブを配置しないことでデッキプレートと垂直補剛材溶接部の疲労対策としているが、それを実施できない場合も少なくない。その対策として垂直補剛材上端部をカットする構造を提案する。また、板厚12mmのデッキプレートに存置された架設用吊金具溶接部にき裂が見つかった事例があるが、板厚16mmでは問題とならない可能性があり、架設用吊金具の使用後の処置方法について提案する。

3 イズミット橋の工事報告

～上下部一括デザインビルドによる長大吊橋の建設～

2016年7月、世界有数の地震地帯であるトルコに世界第4位の長さを有するイズミット湾横断橋(正式名称:オスマン・ガーズィー橋)が開通した。本工事は上下部一括のデザインビルドであり、海底40mの軟弱地盤への海中主塔基礎の設置など厳しい条件の中、わずか施工期間3.5年で開通にこぎつけた。発表では、耐震性の確保と短納期での完工を両立させた構造上、施工上の工夫などについて紹介する。

特別講演会 講演者紹介

ドボクの見方と見られ方

一橋梁デザインに現れる地域文化一

一略歴一

1993年 千葉大学工学部工業意匠学科卒業
1995年 千葉大学大学院工学研究科工業意匠学専攻 修士課程修了
1995年 株式会社ドーコン(旧・北海道開発コンサルタント)勤務
2004年 千葉大学大学院工学研究科デザイン科学専攻 助教
2008年 千葉大学大学院自然科学研究科人間環境デザイン科学専攻 博士課程修了
2010年 アイントホーフェン工科大学(オランダ) 客員研究員
2012年 千葉工業大学工学部デザイン科学科 准教授
2017年 千葉工業大学創造工学部デザイン科学科 教授
現在に至る

1969年千葉県生まれ。千葉工業大学 創造工学部 デザイン科学科 准教授。景観デザインに関する研究、地域づくりに関する研究、産業観光(インフラツーリズム)に関する研究などを行っている。千葉大学において工業デザインを学ぶ過程で土木構造物の魅力に目覚め、札幌の建設コンサルタントに勤務。橋梁のデザインなどに従事しながら、土木業界にデザインの価値を埋め込もうと奮闘した。その後、大学教員に転身してデザインの教育研究に従事し、2012年より現職。著書『ヨーロッパのドボクを見に行こう』(自由国民社、2015)。

八馬 智

千葉工業大学 工学部
デザイン科学科 教授

講演概要

このところ、インフラが生み出す眺めを「風景」として認識する動きが顕在化してきている。その眺めには、圧倒的なダイナミズムや機能優先の造形などの表層にある面白さだけでなく、時代背景や地域社会の影響が色濃く反映されていることから、ツーリズムの対象にもなりつつある。ここでは、ヨーロッパの橋梁デザインを中心とする数多くの事例写真を紹介することで、土木技術者が生み出す風景をあらためて意識化するためのヒントを提示する。

平成29年度

10月13日(金)

橋梁技術発表会

[東京地区]

参加申込方法



一般社団法人 日本橋梁建設協会
Japan Bridge Association Inc.

ホームページよりお申込み下さい。

<http://www.jasbc.or.jp/>

「技術発表会」
の申し込みはこちら。